

流用

ちょっと
拝見となりの
DAMカート色ベタ+スミ40%
50a 新ゴB

倉敷中央病院の巻

30a 新ゴM

38a 新ゴM

×59³¹
Y68³¹0.5³¹ケイ
スミ20%.132³¹→
94³¹×22³¹
Y204³¹0.3³¹ケイ・色ベタ+スミ40%.47³¹→
168³¹

白マド

色ベタ+スミ40% 基本情報

手術室 30 室に対して DAM カート 2 台
W 57 cm × D 50 cm × 高さ 92 cm

DAM カートは、

第 3 病棟手術室エリア (20 室) では中央の術後回復室に配置、一番遠い手術室まで約 70 メートル。

第 1 病棟手術室エリア (10 室) では機材室に配置、一番遠い手術室まで約 20 メートル。

McGRATH MAC™ は DAM カートのほか、主に第 3 病棟手術室の薬剤部前と帝王切開専用手術室に常備している。
また第 1 手術室には DAM カートと別に気管支ファイバースコープを準備し、i-gel® (#3/4) は全手術室に配備している。

情報提供 倉敷中央病院 石田 和慶* ○○・出口 サチ子 ○○

* 2025 年 4 月より
非常勤、現 倉敷中央病院

指定外 11a 新ゴR

1234 ● LISA VOL.11 NO.1 2004-1

7a 新ゴR
⑧H13a
ロダ>B
⑧H
20H色ベタ
スミ40%
文・白マド
6³¹→
152³¹

*指定外の文字は、前号と同じ書体・綴数です。
*---色指定は、---です。

A=色10%+ズミ5%
B=ズミ20%

ちょっと拝見◆となりのDAMカート

背面
(左側)

- 8%リドカイン液、ノズル5本
- 気管内スプレーチューブ (9 Fr × 160 mm, R100)
- 経鼻挿管綿棒
- (真ん中)
- オリーブ油
- シリンジ
- ディスプレイサブル吸引バルブ (気管支ファイバー用)
- ディスプレイサブル鉗子栓 (気管支ファイバー用)

(右側)

- ラバーサクシジョンバルブ
- エルボーコネクタ (気管支ファイバー挿入用)
- マウスピース、ラバー
- サーフロー点滴ライン (14 ~ 18 G)

側面

- 気管支ファイバースコープ2本 (3 mm, 電池式/6 mm, ビデオタワー式)
- 気管チューブイントロデューサ (15 Fr)
- エラスティックブジー (10/15 Fr)
- チューブエクステンジャー (8 Fr, 45cm/11 Fr, 83cm)

天板

- 収納物品リスト
- 気管支ファイバースコープ用光源

引き出し5段目

- McGRATH MAC 本体およびブレード (#2/3/4/X ブレード3)

コメント

当院は手術室が2棟にわたって存在するため、DAMカートも2台常備している。挿管困難が予測される症例には、事前に該当手術室の中あるいは前に移動させて待機するため、カートの稼働自体は、月に数回程度はある。カートの物品補充は院内ロジスティック部サブライ課 (医療支援部門) が行い、月曜日~金曜日の16時に点検 (補充) する。

第3病棟の手術室エリアでは高頻度ジェット換気装置 (HFJV) を、回路を組み立てた状態で常備しており、予期せぬ気道確保困難時、特に cannot ventilate の場合には各手術室の判断で全室に緊急コールを行い、リーダー看護師が手の空いている医師、麻酔科医師に知らせるとともに、DAMカートおよびHFJVを該当部屋まで運搬する。

2023年末に、気道確保困難と睡眠時無呼吸症候群がある中年男性患者の扁桃腺摘出手術が行われた。麻酔導入の際は慎重に鎮静、鎮痛、筋弛緩薬投与を行い、換気はやや困難であったが (PETCO2 V2パターン) (JSA-AMAによる分類で、イエローゾーン) 可能で、McGRATH MACによる喉頭展開後、Cormack分類 grade III の展開が得られ、気道確保に成功した。その後手術は終了したが、抜管後に術後出血が起きた。同様の方法で導入をトライしたが cannot ventilate となった。喉頭展開するも声門は見えず、声門上器具挿入の隙間はなかった。緊急コールを行いながら耳鼻科医による緊急気管切開を行い、その後止血術を施行、ICUに収容後無事覚醒させている。SpO₂は最低30%台となったが、(おそらく睡眠時無呼吸があり、ある程度の低酸素に常に曝露されていたためか) 心停止には至らず、このときは気管切開に慣れた耳鼻科の手術で、気管切開は容易であった。しかし当時のDAMカートには容易に施行可能な気管切開セットが常備されていなかった。そこで、これを契機に緊急気管切開キットをカートに常備し、高頻度ジェット換気装置を併設するに至った。その後一度、緊急気管切開セットが役に立っている。

急気管切開は専門医取得のための必要手技の一つであり、当該病棟の麻酔科医局にはシミュレーター人形とともに急気管切開セットを練習用に常備している。